いりさわ みき 議員

（一問一答方式）



①高齢者が医療から介護につながるまでの切れ目のない支援について

②特別な支援を必要とする児童生徒への支援体制について

③国民文化祭を見据えた地域文化資源の発掘と活用について

在宅医療・訪問看護を含めた連携について

問 訪問介護、ケアマネジャー、介護サービス、地域包括支援センターなどが、１人の高齢者の生活を支えるという視点で連携し、状態の変化に応じて支援を再調整できる体制が必要だと考えるがいかがか。

答 地域包括支援センターでは、医療と介護の連携をより円滑にするため、喜多医師会と協働し、毎月、大洲喜多在宅医療介護連携会議を開催しています。この会議では、かかりつけ医や訪問看護師、薬剤師などの医療従事者とケアマネジャーをはじめとする介護従事者、行政職員が一堂に会し、個別事例について多職種で情報を共有しながら、具体的な支援の在り方を検討しています。これにより、顔の見える関係の構築や多様な相談に対応するためのスキル向上など、連携の強化を図っています。

また、ケアマネジャーの専門性向上を図るため、居宅介護支援事業者連絡会において定期的に研修会を実施しており、10月には医療機関の相談員にも参加をいただき、医療と介護の連携の在り方について、ともに学びを深める予定としています。

認定の有無や要介護、要支援度によって利用できるサービスが異なるなど、制度だけでは対応が難しいケースもありますが、関係機関の皆様と日頃から顔の見える関係を築き、本人や家族の気持ちに寄り添いながら、地域の様々な資源を活用してきめ細やかな支援ができるよう努めています。

学校支援員の専門性について

問 子どもの特性は一人一人異なるため、学校支援員は発達特性への理解や対応方法についての研修が重要と考えているが、どのような研修を行っているのか。また、対応が困難な場合に専門的な助言を受けられる体制を取っているのか。

答 本市では、年２回の学校支援員研修会を実施しており、今年度は７月に第１回研修会を実施しました。市内全ての学校支援員が参加し、公認心理師による学校支援員の役割と具体的な支援についての講話を受講しました。研修後の参加者からは、「共感できる言葉を大切にして子どもに寄り添う支援を心がけたい」、「不安に思っていたことが解消された」、「専門的な話が聞けて大変勉強になった」などの感想があり、実りある研修の機会となりました。第２回研修会では、テーマに沿ったグループワークや意見交換などを行う予定であり、今後も継続して研修の場を設け、専門性の向上に努めたいと考えています。

担任または支援員一人での対応が難しい場合は、校内委員会等を開催して協議するなど、組織で対応することとしています。特別支援学級担任や学校支援員に全て任せるのではなく、管理職や特別支援教育コーディネーター、養護教諭、必要に応じてスクールカウンセラーなども加わり、学校全体で取り組む体制づくりを進めています。

国民文化祭への市民参加について

問 2028年に愛媛県で開催される国民文化祭に向けて、文化活動をしている方から情報やアイデアを募り、人と人、人と場所をつなぐ仕組みをつくることはできないか伺いたい。

答 文化活動の情報発信等については、市公式ホームページ内に市内の文化芸術活動団体を紹介するページを設け、活動内容など団体情報の発信を行っています。

大洲市の文化活動については、文化協会に多数の団体が所属し、活動をしています。文化協会は、団体間の情報共有や協力、大会の開催など、文化活動の継続に大きな意義があると考えています。そのため、新たに文化活動をしたいと考えられている皆様には、まずは文化協会に所属していただくことが地域の文化活動の推進に向けた第一歩と考えています。

また、人と人、あるいは人と場所をつなぐ仕組みについては、文化施設や人材情報を市民の皆様から募り、取りまとめた「文化交流バンク」のような形で情報の整理を検討したいと考えています。